



千八百七十九年二月一日刊行「ジャッパンガゼット」新聞抄譯
紙幣ノ事

大藏省
翻譯課

514



114
A3082



八百七十九日刊行ヤツパン、ガゼツト新聞抄

大正十一年四月
源次郎譯

紙幣ノ事

政府ノ紙幣先ニ銀行ノ紙幣共ニ正貨ニ對スルノ價格大ニ下落
シテ回復スルノ期容易ニ待ツベカラザルノ状態ナルヲ觀視セ
リ
是レ蓋シ日本國ノ為ニモ日本國ニ住居スル外國人ノ為ニモ容
易ナラザルノ事件ナリ故ニ世ノ新聞紙ヲ讀ム衆人ニ向テ其事
件ヲ明了ナラシムルノ目的ヲ以テ反覆并論シテ更ニ此一件ヲ
説明セザルベカラザルナリ
然レモ此論文ハ何カト餘計ナラ喋々囂々トシテ偏ハニ大藏
卿ヲ困却セシムルヲ好メル意アリテ認ムルモノニ非ザルナ

又ハ紙幣ノ愈々下落スルヲ好ムル精神ヨリ出テタル心アリテ
記載スルニ非ラス蓋シ紙幣ノ公衆ノ信用ヲ破壊シテ必然非常
ノ下落ニ至リ財政ノ驚慌ヲ生シ其結果タル預メ前定スル能ハ
ザル程ノ危難ニ至ルベキ所以ノ理ヲ明解センコトヲ熱望スルニ
出ツルモノナリ

今斯ニ一個ノ引用スベキ文語アリ即チ左ノ如シ
夫レ政府モ人民モ共ニ日幣何カト事物ニ関係ヲ有シ一
時間トイハ氏全ク意思空虚トナルコトハナキモノナリ
其意思ノ空虚トナラザルコトハ例之バ一事ヲ成就シテヨ
リ又々彼ノ一事ヲ着手スルト云フガ如ク常ニ心ト事物ト
相関係ニテ息ヲ止サンハ蓋シ人間固有ノ目論見ニシテ乃チ
人生ノ大偉ナリ

吾輩ノ財政ノ政略ハ国民ノ如何トモ主宰シ能ハザル所ノ
事変ニ逢過シヒムヲ得ザルノ状態ニ依リテ政界ノ至極重

要ナル綱領ニ根據シテ確立セシコトナリ
我スルニ右引用ノニテ條言語簡單ニシテ意味深長ナレ
バ敢テ其記者ノ胸奥ヲ洞知スル能ハザルナリ然リトモ
凡今暫ク臆ラテ以テ之レヲ測ルニ米國獨立ノ際ニ當リ
トナシ得ザルノ事變ニ依リテ紙幣ノ発行ニ際シテハ猶豫
ナク紙幣ノ合法貨幣ヲ漸ク支運ノ内廷スルニ至リテハ
ハ之レヲ起シ其已由断ナク拮据執掌スルヲ止メ人智ヲ
ノ間ニ注キ敢テ由断ナク拮据執掌スルヲ止メ人智ヲ

右ノ引用語ハ元来米國ノ有名ナル理財家ノ米國ノ為ニ語リ
シ要語ナリ而シテ深ク之レヲ考フレバ此語ハ日本國ノ理財ノ
處置ニ付テ大ニ日本ノ為ニ適切ナル要語ナレバ日本人ハ真ニ
此語ニ眼脅スベキナリ
若シ今日仕藉ニエラザル江湖ノ日本人ガ現今日本財政ノ形情

大蔵省

ニ付キ大勇ヲ振ヒ貴權ヲ懼レズ其卓乎タル見込ヲ雄辨高論セ
ント欲セバ其論説ハ之レヲ紙上筆シ論説篇ノ体裁ニ記セザル
ベカラザルナリ
然リ而シテ談論説者タルモノ今猶ホ顯職ヲ保タル、大藏卿ノ
在職以未諸種困難ノ綢繆セシヲ一々夫レ々々廢分サレタルハ
随分ノ勤勞ナリト云フヲ忘却セザルナラズ
而シテ充分ナル誠実ヲ以テ此記載ヲ為スニハ其記者タルモノ
稍々近頃ノ期限即チ千八百七十三年(明治六年)ヲ以テ之レガ始
メヲ為スベシ但シ此五ヶ年ハ大藏卿ノ現今擔當セララル、鄭重
ナル職事ニ於テ証據トナルベキ前例ヲ挙クルニ其事相ニ近接
シタルバ詳細ニ論弁スルニ於テ充分ニ大藏卿ニ適當スベシト
信スル所アレバナリ
而シテ前年ニ溯リテ熟々回顧スレバ當時ニ在リテ最モ卓越シ

タルモノハ井上澁沢ニ君ノ退職ノ節構作セラレシ文案ナルベ
シ
談文案ハ當時其出版ノ時ニ在テハ何程不有用ノモノトシテ之
レヲ省儉サレタリトハ蛭氏亦未諸種ノ事變踵ヲ接シテ出未ス
ルニ依リテ愈々其文案ヲシテ鄭重ナラシムルニ至レリ
斯ノ如ク其文案ノ鄭重ナル以上ハ最早其文案ヲ蔽フテモ出未
ザレバ又夕高官ノ憤怒ヲ以テ之レヲ毀傷スルニモ能ハザルナ
リ
而シテ右両氏ノ身ノ上ニ付キ一時罪案ヲ申シ渡サレタレ氏然
レ氏直ニ其罪ヲ輕減シ名ノミノ罰金ヲ申シ付ケラレシハ可突
ノ事ナリ
然レ氏此事タルヤ今日ニ在テハ井上君ハ工部卿トナラレ澁沢
君ハ第一国立銀行ノ頭取トナラレタルバ昔日失敗相平均シタ

ル所デハナク二君ノ榮譽ニ至リテハ即チ前年ヨリモ卓越シタ
リト云フベキナリ
右等ニ紳士ノ文案ヲ著讀スルニ日本ノ歳入ハ歳出ノ五八ノ四
ニ過キサルヲ論セリ又内國債ハ年ヲ逐フテ増ニ増加セリト
云ヘリ
又夕國債ノ右ノ如ク年々増加スルニ於テハ終ニハ巴ムヲ得ス
總ニ糊口ヲ凌グ丈ケノ窮乏ノ人民ニ重大ノ苛税ヲ賦課スルニ
非サレバ挽回スヘカラサル國家財政ノ窘迫ニ至ランヲ論セ
リ
右ニ紳士ノ論ニハ日本ノ國債ハ日本國發行ノ紙幣ニ於ケル員
債ト合計シテ一億二千五百円ナリト云ヘルアリ
而シテ文案ノ終末ニ於テ節儉ノヲ論シ明白ニ日本ノ財政ヲ
世界ニ表示セリ蓋シ日本ノ財政ヲ明白ニ世界ニ表示セルハ之

レヲ嚆矢トス
然リ而シテ其語甚ク激烈ニシテ日本内外ノ國債及ビ紙幣ヲ償
還スルノハ國家ノ急務第一ノ義ナリト云ヘリ
此ノ文案ノ全篇ヲ熟考シツ、吾輩ノ讀者ハ大隈氏ガ其次官ノ
意見ヲ擯斥セラレシトニ至リテ大ニ心ヲ措カザルヲ再ザルベ
シ
日新事誌ニ於テ此文案ヲ出版セシ後々數日ナラスシテ大藏
卿ノ公告アルヲ見タリ而シテ其公告ニ於テ豫算ニ依レバ二百
十萬零三百六十四円ノ餘額アリト云ハレタリ
而シテ内國債外國債共ニ合計シテ日本帝國ノ國債總額ハ唯々
三千百二十二萬四千七百零一円ナリト云ハレタリ(千八百七十
三年即チ明治六年六月ノ公告ナリ)
蓋シ大藏卿ハ自カラ深ク信スル所アリテ正実ノ勘定ヲナシ嚴

密ノ検査ヲ遂ケ正当精算ノ上調裁シタル會計ノ状態ヲ明告シ
世ノ迷ヲ解カント希望サレタルモノ、如シ
即チ井上波沢ニ氏ノ文案ノ為ニ生シタル世上ノ妄想ナル思慮
ヲ消滅スルノ目的ヲ以テ公告セラレタルモノ、如シ
早ツ日本會計ノ如何ヲ顧慮スル日本人ニ外国人ノ思想ノ迷
ヲ解クノ目的ニ出テ、且ツ内外人ノ疑ヲ解キ輿論ヲ安息スル
ノ目的ヲ以テ公告セラレタルが如シ
千八百七十四年(明治七年)ニ於テ大藏省ノ建物火災ニ罹リテ焚
失セリ而シテ當時発行ニ成リタル紙幣ニ関シタル記録モ火災ノ
為ニ焚失セリト云ヘリ
按スルニ大藏省ノ焚失セシト余輩日本人ノ未ダ曾テ聞知
セザル所ナリ恐クハ四務省火災ノヲ誤聞セシモノ
ナラ
然レモ此紙幣ニ関シタル記録、焚失ハ縱ニ困難ニシテ大ニ紛

乱ヲ生セシトト云ヘ氏其ノ之レヲ再造センニハ何ノ煩モナ
ク単簡ニシテ且ツ割ニハ多クノ入費モ要セザルベキナリ
即チ此焚失シタル記録ハ該田紙幣ヲ一端貯戻シ更ニ紙幣ヲ發
行シテ以テ焚失セシ田物ニ換用スレバ固ヨリ大ナル煩勞ナキ
トナルベシ
大藏省焚失後ニ於テ世上一般ノ信スル所ハ是レマデ調査ノ行
キ届カザリシ國債ノ額數又ハ調査ハ行キ届キタレ氏亦タ世ニ
公告サレザリシ所ノ國債ノ額數ヲ確實ニスルノ方法處分アル
ベシト思ヒ居タリシナリ
世上ハ右ノ如ク思ヒ居リシカ氏千八百七十五年(明治八年)ノ會
計年度ニ依リテ右ノ處分ハ必スシモ用ヒスシテ宜シキトニ成
リタリ
即チ其年度ニ於テハ大隈氏が大藏省ノ焚失ニテ為メニ記録ノ

焚失セシニモ係ハラス九千四百八十万零三千八百九十四圓ノ額
數ニマデ紙幣ヲ増殖セント云フヲ表セリ

此第一ノ公告後暫クノ間隙アリテ紙幣ノ總カノ額數ガ償還サ
レタリ然レモ南國鹿兒島ノナラシノ逆徒ノ為ニ已ムヲ得ザ
ルノ需要ニ應センガ為ニ又々紙幣二千七百萬圓ヲ發行セリ
依之千八百七十九年(明治十二年)ノ會計年度、始メ至リテハ
紙幣ニ於ケル國債ノ全額ハ一億二千零九十二万七千二百零九
圓ノ高ニ登レリト計算セリ

日本ノ國民タルモノ五年以前ニ在テハ縱令九千五百万圓ノ紙
幣ヲ高價或ハ同價ヲ以テ之レヲ保持スルコトヲ得ベクモ而カモ
今日ニ在リテ充分相当トスルニ足ラザル僅カノ道理ヲ以テ並
抵当ノ紙幣二千七百万圓ノ過剰ノ額數ヲ發行セラル、ニ至リ
テハ勿論コレヲ保持スルコト能ハザレバ之レガ為ニ發行紙幣全

額ノ下落ヲ生スルハ自然ノ勢ニシテ復タ已ムヲ得ザルノ原因
ナリ

其紙幣全額ノ下落スル其レ斯ノ如ク甚シキハ固ヨリ政府ノ其
紙幣ノ負債ヲ償還スル能力ニ付テハ多ク信用ヲ置カザル覺悟
ノ前ノ人ト云ハ大ニ驚愕スル所ナレバ其政府ノ償還ヲ篤信ス
ルノ人々ニ在テハ其驚愕スル果シテ如何ゾヤ

今欲論說ヲ為ス人ノ云ハシニ此他猶ホ論スルコトアレバ即チ左
ノ如ク縷述スベシ

紙幣ノ價ニ於テ大ニ沈没シタル下落ニ付キ人民ノ論定シタル
其下落ノ理由ト云フハ紙幣ノ發行高ガ政府ヨリノ公告高ヨリ
モ殆んど一億万圓モ過剰シタルニ相違ナシト云フコトナリ且ツ
紙幣ノ真ノ發行高ノ曖昧タルコトハ世上ノ信用ヲ失敗スルノ所
以ナリト云フコトナリ

而シテ斯ノ如ク論シ未レバ余ガ論言ノ射線ハ大隈ノ職上ニ
反射スルノミナラス某外國新聞記者ニモ反射スルナレド
蓋シ該外國新聞記者ハ近頃日本會計ノ事ヲ其新紙ニ記載シテ
紙幣増殖ノ額數ヲ唯ニ千七百円前段ニ掲載セシ額數ナリノ
シト云ヘリ

又タ千八百七十五年明治八年ニ於ケル大隈氏ノ考定セラレシ
昏面若シ井上澂沢ニ氏ガ公債ニ付テ考定セラレタル預案ノ確
実ナルトニ於テ論駁セラル、トシテミレバ千八百七十三年明
治六年ニ於テ大隈氏ノ考定セラレタル此等ノ預案ノ前二氏ノ
説ニ反對セルトニ付テハ如何ニ考案ヲ定ムベキヤ
獨立自由ノ人民ニシテ其義務ヲ尽サシムルハ實ニ氣ノ毒ノ事
ナルベケレ氏世上ニ公告スルニハ誠ヲ推シテ以テ之レニ告ケ
被愚スルトアルベカラザルナリ

日本人民ハ總テノ記録ノ焚失セシトテ信セザルヲ得ザルニ至
レリ又タ全國ノ安危ニ関シテハ最モ不容易ナル事件モ生スベ
ケレバ唯々諾々トシテ其保ツニ堪ヘガタキ國債即チ紙幣ヲ承
諾シテ後々疑フ所ナキニ至ラ使メラレタリ
日本人民ハ政府ガ過剩ノ紙幣ヲ発行シタリト自首スルマデ疑
念ナク紙幣發行ヲ承諾スベシ直接ニ非ザルモ間接ニ於テ或ハ
告諭サレタルニ相違ナシト思ハレナリ
總テ誠實正直ヲ旨トシテ為サレタル検査ハ之レヲ蔑視シテ以
テ是非ヲラレタリ
然シ其際ニ於テ政府公告シテ以テ諸國立銀行ニ無抵当ノ紙幣
ヲ発行スルトヲ許可セリ此紙幣ハ絶ヘズ發行シテ之レガ為ニ
政府ノ國民ニ於ケル信用終ニ地ニ落テタリ
會計ノ状態ヲ斯ノ如ク數クハ立ツルトノ後ニ猶ヨリ本會計ノ

理由ヲ考定セザルヘカラザレバ今マ是レヲ説述シテ左ノ如
シ
蓋シ其日本ノ政略タル定数ナキノ紙幣抵当ナキノ紙幣ニシテ
且ツ全ク交換セザルノ紙幣ヲ発行シ之レヲ合法貨幣ト布告シ
以テ箱波ノ国用ヲ濟スルモノ、如シ
故ニ今是レヲ論セントスルニ當リテ大語ヲ引用スルヲ尤ノ如
シ
政府一疋ノ紙上ニ公布ヲ書シ其各面ニ由リテ同シ一疋ノ
紙ニシテ一帛トモ成ルヲ得ベク又ハ一千帛トモ成ルヲ得
ベク一帛モ千帛モ同シ一疋ノ紙ナリ其差異ノ所ハ唯字面
ノ差異アルノミ
但シ此見込ハ甚ダ新規ノ見込ニシテ紙幣論者ノ集ガ此見
込ヲ以テセ、アメリカン・システム・オブ・ファイナンス米國理

財法ノ義ト名ツケテ尊奉スル所ナリ
右ハ米國ノ理財法ナルベケレ氏然レ氏法則通貨ヲ紙幣ト爲スト云フ紙幣ヲ指
トナリテハ國ニモ又ハ他ノ國ニモ未タ斯ノ如キ
ノ事ハ之レアラザルナリ按スルニ紙幣法ヲ唱
古未コレヲ經驗ニ徵証スルニ總テ紙幣論者ノ德憑ニ由リ
テ建議サレタルハ悉ク實際ニ適セザルモノナリ
又々紙幣論者ノ言フ所ノ利益トカ便利トカ云フモノ其事
ヲ實地ニ施シテミルニ一例トシテ皆テ失敗ヲ招カザリシ
トハナカリシナリ請フ察スル所ア、い
政府ナルモノハ元ト人間ノ集合シタルモノニ外ナラザル
ニ造物ノ所為、如ク魚形ヨリ有形物ヲ創造シ得ルイアリ
ヤ
又人間ノ政府タル以上ハ總テ人類ノ思想ニ有價物ト

シタルモノヲ魚價物ニナシ得ベキヤ如何
即チ魚形ヨリ有形物ヲ創造スルコトモ又ハ總テ人類ノ思想
ニ於テ有價物トシタルモノヲ無價物トナスコトモ能ハザル
以上ハ一片ノ布告ヲ以テ衆多人民ノ心ヲ変シテ實ニ價格
ノチキモノヲ價格アリトシテ承諾セシムルコトヲ得ベキ
ヤ
又タ之レヲ經驗ニ徵証スルニ縱令一時ハ人民ノ心ヲ變ス
ルヲ得ヤクモ到底永遠ニ之レヲ保持スルコトヲ得ベキヤ是
レ必ス然シ能ハザルコトナリ
人民ノ愚弄サレ得ルコトノ最モ著明ナル証據ハ紙幣論ヲ唱
ヘ之レヲ建設スル人ノ猛^愚ヲナルコトニ於テ察スベキナリ而
シテ其建議ヲ採用スル人々ノ愚昧ナルコトニ於テモ亦之ヲ
察スベキナリ

斯ノ如ク不良ナル人ハ概シテ見レバ多数ニモアルマジケ
レ凡其所為ノ不良ナルガ為ニ其毒害終ニ一時底止スル所
ヲ知ラザルニ至ルベケレバ實ニ會社ノ戒心セザルヲ得ザ
ル所ナリ
茲ニ日本ニ於テ余輩ハ紙幣ニ刻印セシモノヲ以テ真價ノ價直
アルモノトシテ承諾スベク命セラレタリ但シ其真價ト云フモ
ノ尤ノ如ク説明ヲ得シモノナリ
其通用紙幣ノ發行者タルモノ一心ニ國立諸銀行ノ效^ハヲ
レヲ通用ヲ増ス而シテ又々驚愕スベキ程ノ紙幣ノ下落ハ
自作ノ政略ニ帰スルニ非スシテ外國人ノ妨碍即チ幣ノ相
場ノ騰貴ニ帰セリト主張セリ
然リ而シテ此紙幣ヲ合法貨幣トナスノ布告ハ敏捷ニ萬事
ニ感シ易キ人民殊更商人ノ為ニハ實ニ怪異ハ^ト云ハサ

ルヲ得ザルナリ

今一個ノ徵証ヲ引用スルヲ左ノ如シ

商賣ハ價アル甲ノ物ト價アル乙ノ物ト相互ニ交換スルヲ云フナリ即チ價アル乙ノ物ノ約束ニ向ケテ價アル甲ノ物

未付スルヲ云フナリ

而シテ此道理ハ最早日本國ニ於テハ運用サレ能ハザルハ故ニ從テ商法ノ業屏息萎靡シテ以テ復タ振起セザルナリ

日本ノ負債ノ重荷ヲ軽減スルニ於テ政府ノ獨リ依頼スル所ノ國民ノ最良ナル勉強心ハ萎靡シテ地ヲ耕ヒ反覆シテ復タ政府ヲ顧ミルナキニ及ヘリ乃チ欲紙幣ノ為ニ^自主ノ能カヲ打碎カシタルモノ、如シ其証ハ即チ左ノ如シ

所有物ノ所有主カ其所有ノ權ヲ他人ニ渡ス片ハ此交換ト

シテ其所有主ハ他人ノ所有物ヲ受取ラザルベカラス^取他人ノ所有物ノ約束ヲ受取ラザルベカラス

若シ此ノ相互ノ權理アル交換ナキハ其人ハ不正ノ奴隸タルヲ免レザルナリ

此語ハソブスタンス、アソド、シヤドウ、イン、フアイナンス(政府ノ

形影^{正貨紙幣}ト題シテ^子オレジ、エス、ボルト、ウエル、氏ノ稿定

セラレシ文ニテ千八百七十九年一月刊行ノ^マルズ、アメリカー

ン、レヴ、井ウ(北米景況ノ義)新聞紙ハノ投書ヲ今斯ニ引用シテ以

テ^山ニ挿入セシナリ

	SUN								SUN	SUN
--	-----	--	--	--	--	--	--	--	-----	-----

大

清

平

